

平成30年度 第2回御殿場市総合教育会議

日時

平成30年11月30日（金）午前1時30分

場所

御殿場市役所東館2階 201、202、203会議室

出席者

御殿場市長	若林 洋平	教育長	勝又 将雄
教育委員	勝又 英和	教育委員	佐藤 朋裕
教育委員	芹澤 えつ子	教育委員	大西 孝明
教育委員	勝又 綾子		

陪席者

教育部長	教育総務課長
学校教育課長	学校給食課長
学校給食課副参事	学校教育課参事
教育総務課副参事	教育総務課主任
教育総務課副主任	教育総務課副主任

傍聴者

15人

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - (1) 平成31年度の教育予算 について
 - (2) 教育における環境整備 について
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今から平成30年度第2回総合教育会議を開催します。
全体進行につきましては、教育総務課の鎌野が務めさせていただきます。よろしく
お願いいたします。
開会にあたりまして、初めに御殿場市長からご挨拶をお願い申し上げます。

2 市長挨拶

市長

皆様、改めましてこんにちは。

本日は平成30年度第2回総合教育会議ということで、多くの傍聴の皆様のご来席いただきまして、ありがとうございます。先日、西中学校で市長と語る懇談会に出席いたしました。生徒総会の中で、市長と語る会という形で実施させていただきました。私は非常に感激というか、あまりに素晴らしくて、御殿場の子ども達はこんなに本当に素晴らしく成長していることを目の当たりにしました。感激のあまり、普段はそんなに緊張しない私ですが、大変緊張しました。初めて中学生とあいう形で対話集会をしたということを経験し、御殿場市の教育委員会、さらには校長先生をはじめとする学校の先生たちの教育は本当に間違っていないな、本当にありがたいことだな、ということを改めて実感いたしました。

前回の総合教育会議では、教員の多忙化についてお話しさせていただきましたが、これは御殿場市のみでなく、全国的に非常に問題となっているところですが、それに関連するというか、先生方の働く環境については子供たちの学ぶ環境、こういうことを掘り下げて皆様とお話したいと思っております。協議事項としては環境整備となっております。もちろんその前には、来年度の予算の話もありますので、その辺も意見をお聞かせいただきたいなと思っております。

いずれにしても、御殿場市の教育予算、もちろん学校の新築や改築になると、予算は大きくなるので、一概に金額が大きいから小さいからということではないとは思いますが、学校に対して市の負担費で行っているようなことは見て頂きたいですし、またそういったことを、ぜひ市民の皆様にもしっかりとお伝えいただければと思っております。

貴重な時間としていきたいので、皆様ご協力の程よろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

教育長

こんにちは。

明日は市町駅伝の大会が行われます。12月ですので師走の時期になっております。今年第2回目の総合教育会議ということでよろしくお願いしたいと思います。冒頭に私の方から概略的な説明と同時に、提案をさせて頂きたいと思います。時節柄、当初予算等の大きな話題もありますが、当市の教育方針の基盤となるような話で挨拶にかえさせていただきます。

昨日の岳麓新聞に一面に、市長からもお話があったとおり、西中学校の生徒との対話の記事が載っていたのですが、「社会に生き抜く君たちへ」という題名そのものの内容であったなど、記事を読ませて思いました。特に教育フォーラムという形で、夏に市内の教職員の皆様に一同に集まって頂いて、その場でも市長からのお話を受けているわけですが、その流れの中で中学生との対話は本当に貴重な経験であると同時に、大きな提案であったのかなと思います。

西中学校に限るわけではありませんが、たまたま現在、校舎の改築中ですし、なおかつ、西中学校の校区の中で、国の指定を受け、研究の発表があったばかりで、研究発表会の内容と同時に子ども達の姿を見て、参加者から高い評価を得ました。

また、マーチングバンドが全国大会へ行くことになっておりまして、その準備を、実際には8月で中学3年生は大体部活動を引退するのですが、このマーチングバンドの子ども達は12月の全国大会まで、ずっと頑張っているという状況があります。

同じ紙面の裏側に、御殿場中学校の生徒のゴミ拾いの話も出ていました。御殿場市内の学校は挨拶がきちんとできるという評価を得ている中で、ゴミ拾いを率先してやって、なおかつ、その姿を見ていた地域の方たちが学校に報告してくれるという、学校の教育と同時に、地域の教育力、あるいは社会力が高い地域なんだと改めて思いました。

最近、地元紙には夢創造関係の色々な事業の報告が入っておりますが、それを一つとってみても、学校それぞれで特色のある経営、教育が促されているのかなと思っております。

学校教育の一番の基幹となる学習指導要領というものがあるのですが、大体10年に一回内容が改定されています。東京オリンピック・パラリンピックが開催される年に完全実施になります。それに向けて準備を進めているものですから、約10年間のスパンで御殿場市の教育の在り方を構築している最中です。当然ながら、後ほどで

くる予算も、そういう展望の中において事業計画は発信していくので、そういう視点で見てもらえるとありがたいです。これについては、教育フォーラムの中でも私から先生方へ構想の一部を提示しております。

切実な話題を提供いたします。実は静岡県の県内の大学進学者のうち、県内の就職率は4割を満たさない、つまり、大学へ行った後に帰ってくる者の数が大変少ない旨が新聞の記事にありました。高校三年生の半分为進学です。その内、約7割は県外に進学します。県外に進学する子ども達のうち、地元に戻ってくるのは4割以下です。平成28年度のデータですと、県内の大学進学者は16,890人でした。その内、県外への大学進学者は12,174人です。計算すると72.1%でした。ですから、県外進学者が70%を優に越えており、その内の4割しか戻ってこないのです。これが現実です。

昨日の新聞では、小山町では高校生のうち8割が町外へ出ているという数字が出ており、調べれば御殿場市内でも同様の数値が出てくるのではないかと危惧しております。静岡県の人口は30年間で2割以上減少しております。単純推計で、2045年には300万人を割るという計算になります。

やはり帰りたくなる市というか、そういう魅力磨きをしていかなければ、子ども達は大人になった時に我が故郷へ戻ってこないのかなと思っております。市長も色々なところで、そういうお話をされていて、人口が増える街作りをするとおっしゃられています。教育の分野でいえば、大人が楽しみ姿をみて、大人が生活を充実させて、満足感を得られる生活を持つことによって、子ども達は大人の姿を見て、我が御殿場市へ戻ってくるのかなと思います。たぶん、地元に対する愛着の度合いかなと私は考えているのですが、仰々しい大掛かりな街の再生ということではなく、まずは自分たちが面白い、生活が充実していることを子ども達へ教えていかなければいけないのかなと思っております。

そこで私が考えているのは、ふるさとキャリア教育というものです。単なるキャリア教育というと、進路や生き方の指導になりますが、ふるさとキャリア教育という項目を起し、何とか我が御殿場市の良さを発信し、我が故郷へ戻って、我が故郷で生きて、我が故郷を創るという子ども達であって欲しいと思っております。先ほど、西中学校の生徒との話もありましたが、そういう意味を含め、未来の御殿場市民をどう育成していくのかということが、教育の根幹にも問われているのかなという気がします。私自身は子ども達が市外の高校や大学に進学することを選んだとしても、それはあくまでも国内留学であり戻ってくることを前提であると考えております。そういう意味合いでは、街作り、人づくりを考えるうえで、教育委員会も未来の御殿場市民を育てるための教育をどのような形でするかということを意識しております。

教育課題は尽きません。後ほど各教育委員の皆様から意見が出ると思いますが、教育委員会は独立した合議制の執行機関となっております。市長の場合には選挙によって選出されますが、私たち教育委員会の中の教育長や教育委員は議会の承認を経てこ

ここに座っています。同時に教育委員会の事務局は、市長部局からの出向のスタッフと学校現場から来ている交流の先生方との合体で出来ているため、なかなか微妙な立ち位置といえます。教育委員会には何が望まれるかという、公平性を保ちながら、適正な教育を進めていくということです。

最近、テレビ局の話題をよく出しているのですが、市民の多くの皆さんは日常的には民放のテレビを見ているのではないかと思います。立場的にいえば、NHK は公平さをモットーとしておりますので、私の立場でいうと教育局ではなく、NHK の総合のほうに立ち位置を変えていかなければいなくなった時代なのだと思います。義務教育は限られた時間の中で丁寧にきちんとやることが基本の姿ですが、もうちょっと踏み出して、公平性は求められますが、NHK の総合的な発想で進んでいく必要があるのかなと思っております。

この後にも、色々なお話があるとは思いますが、本日は第二回目ということで、是非よろしく願いいたします。

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

4 協議事項

(1) 平成31年度の教育予算について

教育総務課長

本日のテーマは、(1) 平成31年度の教育予算について、(2) 教育における環境整備についての2点となります。

一つ目の協議事項についての意見交換を頂く前に、教育部長より当市の教育予算にかかる事務事業の動向について説明をさせていただきます。

教育部長

よろしくお願いいたします。それでは、私のほうから当市の教育予算の動向についてご説明をさせていただきますと思います。

次第の方には、平成31年度と書いてありますが、来年度の予算がどうのこうのというよりかは、もう少し長いスパンでもって、教育をどのような形で考えていくのかという視点でお話しいただければありがたいと思います。

それでは、お手元に配布いたしました「教育費の年度別決算額予算額等について」をご覧ください。

初めの表は平成30年度の一般会計当初予算における款別のデータで、歳出総額は372億2000万円となっております。その内10款の教育費は47億円余りで全体の12.6%を占めております。その下からは、教育費についての各データになります。平成27年度から29年度までは、それぞれの決算額、30年度については当初予算額を記載してございます。

まず、教育費全体ですが、ここ数年間は額にして40億円前後、全体の11%程度で推移しております。学校施設の改築等、ハード事業には多額の予算を要することから、その事業量によって教育費全体の予算も左右されます。このハード事業は平成27年度で学校施設の耐震化が全て完了したことで現在は校舎やプール等の老朽化に対する改築や大規模改修を計画的に実施しているところです。

2ページ目をご覧ください。ここからは、項目別の状況となります。10款1項3目教育指導費につきましては、発達障害児等の補助、教員の多忙化解消など、学校教育の充実を推進するための事業で、年々増加傾向にあります。特に、児童生徒が心にゆとりをもって勉学に臨める環境づくりを行うための教育相談事業や、知的・情緒面で支援が必要な児童生徒に対し、特別指導を行う為の学校外教育充実事業。また、若手教員や

講師の指導力向上を図るための教育指導センター事業など、いずれも授業の充実を図るために必要な指導員や補助員等の人員増に多くの予算を充てております。

次に3ページをご覧ください。10款2項1目小学校の学校管理費です。このうち、備品の整備や改築、改修に関わる施設整備費は、神山小学校の校舎や朝日小学校のプールの整備が完了したことにより平成30年度は減額となっております。特別支援学級諸経費は児童数の増加に伴い、年々増加傾向にあります。

次に4ページをご覧ください。10款2項2目教育振興費、このうち小学校扶助費は学用品や給食費等にかかる就学援助の予算であります。離婚等により低所得となる世帯の増加に伴いまして、援助費が増加傾向にあります。

次に中学校に関する予算になります。10款3項1目中学校の学校管理費のうち、施設整備費は平成30年度、31年度で現在原里中学校のグラウンド拡張整備を実施しておりますので、そのために大きく予算が増額となっております。

5ページをお願いします。特別支援学級支援費ですが、小学校と同様に生徒数の増加に伴い少しずつ増加となっております。

次に10款3項2目中学校の教育振興費のうち、扶助費は小学校と同様ですが、就学援助の対象となる生徒増加等に伴い援助費も年々増えております。

次に6ページをお願いします。10款3項3目の西中学校の校舎改築事業費、こちらにつきましては、主たる校舎改築工事の契約がされたことに伴い、平成31年度にかけて改築工事が施工されることで大幅に増額となっております。

次に10款5項1目の社会教育費の社会教育総務費のうち生涯学習推進事業は、生涯学習や家庭教育の推進・支援、婦人会連絡協議会の活動支援の予算となっております。また、青少年対策事業は青少年の健全育成の推進に関する各種事業の予算ですが、各年に実施されます青少年の為の科学の祭典の開催の有無により、年度で予算の増減がございます。

次に7ページをご覧ください。10款5項3目社会教育費図書館費になります。市立図書館の運営、読書活動の推進、蔵書の充実等に要する予算ですが、ここ数年間は大きな変動はございません。ただし、現在の市立図書館の老朽化に伴いまして、図書館整備が一つの課題となっているため、今後、図書館の基本構想策定していくなかで検討していくこととなります。

次に10款6校1目学校給食費、給食センター運営費ですが、安全安心でおいしく栄養バランスのとれた給食の提供に要する予算です。こちら、学校給食センターの老朽化に伴う建て替えや給食献立の充実などの課題があることから、各種調査を進めるなかで検討してまいります。

最後に8ページをご覧ください。こちらは参考までに、小中学校の児童生徒数の推移をグラフにしたものを掲載しております。児童生徒いずれも減少傾向にあり、この傾向は今後も続くものと思われそうですが、一方でエアコンやICT機器をはじめとした学習環境

の整備や、児童生徒へのきめ細やかな指導、教職員の多忙化の解消等、学校教育の分野だけでも相当の予算が求められているところでございます。しかしながら、財源にも限りのあることから、事業の取捨選択や優先順位付けを行っていくことが今後の検討課題となります。

以上、当市予算の状況について説明をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

教育総務課長

部長ありがとうございました。それでは市長、進行をお願いいたします。

市長

只今、予算について説明があったところですが、最初に私の方からお話しさせていただきます。特に見て頂きたいのは2ページなのですが、昨年度の会議でもお話しさせていただきましたが、教育指導費、教育指導員、相談員や補助員への費用については、先生方に負担がかからないように、整備しております。

まずは、教育長からお願いします。

教育長

予算というものは、いくらでも要望を出せばキリがないものですが、先ほど推計と同時に生徒数がでてきました。どこの市町も子どもの数は減ってきているのですが、見落としがちなのは、静岡県の場合には、国が40人学級のところ、35人学級を開いております。35人学級というと、当然ながら一つのクラスの母体が異なってきます。学級が増えるわけです。同時に、特別支援の対象児というのは特別支援教育の浸透と同時に、特別支援学級へ入級する子ども達が増えている状況にあります。

特別支援学級の子ども達の数というのは35人学級ではなく、特別な編成になります。どうなるかという、つい数年前までは玉穂小学校に特別支援学級が5クラスあって、学級が足りなくなってしまう状況になりました。そこで、学校設置審議会を開き、拠点校である特別支援教育の中でも情緒障害の子どもさんについては、通学する場所を変えたという経緯もあります。特別支援教育の対象が浸透すればするほど、特別支援学級の状況は変わってきます。単純に生徒が減ったから、学校の中の学級がそのまま空き教室

になっていくかという、とんでもない状況です。これは御殿場市に限らず、色んなところの地域で起きている状況です。

学校の一つの問題としての特別支援教育は、通常学級のある母体とする学校と同時に、同じ学校にある特別支援学級、御殿場市でいうと知的障害と情緒障害の2種類あります。これが高校へ行くとなると、高校側は特別支援学級を作っていないので、情緒障害の子どもは通常の高校の受験生となります。知的障害の子どもは、この近くでなら御殿場特別支援学校への進学は可能です。

この違いが一般の方たちには、中々見えないところでして、ここのところを中学校の進路指導では困っているところです。私個人としては、県に対して公立の学校に特別支援学校を併設してもらいたいと、ずっと要望しております。実現していませんが、試行的に沼津の城北高校にそれに近いものを取り入れております。しかしながら、市内の高校に特別支援学級をつくるといったことは今のところありません。

ということで、特別支援学級がどんどん増えており、御殿場特別支援学校は分校をつくるという構想がでております。何が遅れているかという、高等部です。中学校において特別支援学級にいた子どもさん達が、そのまま特別支援学校に進学しているということを、伏線として理解していただけると、先ほど市長がいわれたような特別支援教育の補助者を入れているのか、センターの指導員が配置されていることが、これがそういうものに活用されているということがわかると思います。

御殿場市の場合には、特別支援教育については御殿場市立養護学校の時代から、静岡県最先端であった地域です。それだけ丁寧に、子どもさん達には個別的に指導をしていたわけです。当然ながら、市内では高根中学校を除く15校には特別支援学級が併設されています。これが母体として色々な事業が出てきていることをわかって欲しいです。

公立の幼稚園や保育園にも特別支援の対象的な子どもさん方がおりますので、その子たちのサポートも同様に補助者を配置して頂いております。これが我が御殿場市の、子どもにやさしい街という標語の中の一端だろうなと思っております。

教育の根幹はマンパワーです。人をどうやって配置していくかという、顔と顔を合わせて子どもを育てていくのが原則ですので、そういった点を見て頂けると、予算の在り方も、どこに力を入れて頂いているのかが見えてくるのではないかと思います。

市長

教育長ありがとうございました。では、委員の方からお話を聞きたいなと思います。代理であります、勝又委員お願いいたします。

よろしくお願いいたします。

冒頭で市長さんが西中学校の生徒さんと対話をして、大変感動したというお話がありました。我々教育委員も11月の上旬に行われた全国に向けての発表、魅力ある学校づくり、不登校を出さないという研究発表会に参加いたしました。

御殿場市は子供たちの学ぶ環境が本当に素晴らしいと感じさせていただきました。富士山が見える校庭・校舎があり、改修された校舎では広い廊下や、きめ細かな設計がさせていることを感じました。

中学校は全校が授業公開で、すべてが見て頂けるという形です。どこのクラスにいても秩序だった中で、子ども達が先生や仲間と心を通わせ学習している姿が印象的でした。私たち市民が学校へ求める姿そのものだと思います。

先生方が多忙化の中で、一丸となって対応されていて、その姿勢が子ども達の中で反映されていることがすごいなと思いました。予算の中で、教育指導センター事業、つまり先生方の研修や授業作りを支える事業が、御殿場市は力を入れて頂いております。先生方の授業を指導する先生がいて、底上げがされていることは非常に大きいのではないかと思います。多忙化の中でもマンパワーを保證していただいている行政の力を先生方も感じ取ってくれているのではないのでしょうか。

子ども達はやはり人が育てるわけで、育てる人たちが健康でいて欲しいし、子ども達一人一人の良さや課題を理解したうえで、毎日を過ごして欲しいと思います。多忙化により虚ろな目で教室に臨むような先生で絶対にあって欲しくないと思います。先生方が元気であるための予算だと思いますので、これからも是非支援して欲しいとおもいます。

市長

ありがとうございました。前回の会議でも多忙化についてはお話が出て、その中で出来ることについてはやっていくべきだろうと思います。最近まで見落としていたのですが、先生方には出張があり、出張の際の空いたクラスについては、もうちょっと見てあげた方がいいのかなと思っているのですが。

そのあたりについて、教育長に実情を聞きたいです。

教育長

今話を市長から提供して頂くということは、本当に申し訳ないなと思うところですが、本来は教育の関係については県がきちんと責任をもってやるべきなのです。ところが、先ほどお話ししたように、学級を35人としたときに、きちんとした人材配置をしていけばそれなりのことができたのです。級外という担任ではない先生がいて、出張の際には、級外にいる先生が対応するということもできたのですが、現在はできません。空きの先生がいないのです。35人学級としたときに県は何も増やしてくれなかったのです。本来的にいえば県がすべきところを、市の方をお願いしているわけです。出張のあとの補充については、県にきちんと行って配置を考えてもらう必要があります。

特別支援教育を含めた人の配置については、市長自ら市長会の際に県に要望をかけて頂いたことが新聞にもありました。正にこういう姿を見せなければ動いてもらえないのです。

静岡県は、教育にかける予算は全国でワースト3に毎年はいります。お金をかけていない有数の県になります。このしわ寄せは巡り巡って市町にきます。もう少し県がきちんとやってくれないと、市町がいくら頑張っても難しくなるのかなと思います。その中でも我が御殿場市は、2ページの表を見ても、毎年毎年費用があがっており、それだけ教育にお金をかけてもらっているという状況です。県にも要望していきたいと思っています。

市長

ありがとうございます。やはりそういうことだったのですね。たまたまこの間、知り合いの先生から出張に行けないという話をきいておりまして、級外の先生が昔は居たということですね。今度、県の教育委員長と首長の会合がありますので強く要望いたします。

それでは、芹澤えつ子委員お願いいたします。

芹澤えつ子委員

外国人英語指導者の配置について気になりました。道徳に続き、間もなく英語が教科化されるということで、大変関心がございます。市内には9人のALTの先生が配置され、今後も増員予定と伺っております。これからの教育では、聴く、読む、書くに加えて話す能力が必要であると聞きました。特に中学校では今まで以上に話すということが重要になるそうです。この話すという能力を伸ばすにはALTの先生との会話が不可欠であると思います。話すということに抵抗感を持つ前に、英悟でコミュニケーションをする機会が増えることを期待したいですが、その為には、いずれは各学校に

ALT の先生が常駐されて授業以外の時間でも英語に接する時間が増えることで、より英語に親しみを持ってくれるのではないかと考えております。

私の子どもが中学生になって驚いたことは、最初の授業で「今日は英語で自己紹介をするんだよ」と言って出掛けて行ったことです。たとえ文法がきっちりしていなくても、知っている単語の組み合わせで、クラスの皆が自己紹介できるということは、小学校1年生の頃からお世話になっており、発言する体験をしてきたため入学した時点で自己紹介ができるのだなと思いました。先生方へのニーズは全国的に高まるのではないかとと思うのですが、人選の際に少しでも日本語や日本の文化を理解していらっしゃる方をお願いすることで、子ども達の理解も深まり、また一緒に授業に入られる先生方のご負担も軽減できるのではないかとおもいました。

引き続きの充実をお願いしたいと思います。

市長

当然、私から一言でいえば充実してまいります、とうことなのですが、せっかく教育長がいるので教育長の意見を聞きたいなと思います。

教育長

英語は授業の中に組み込まれるのですが、小学校で授業をやるということを、御殿場小学校に指定の研究をお願いしているのです。これを受けて平成31年度から市内の学校に流していこうかなと考えております。ALTについては現在9人配置しているのですが、本来は各学校に一人常駐させるのが望ましい姿かなとおもいます。

このALTの配置の関係では、印野小学校に一人ALTを独自に採用して、小学校の1年生から6年生までの面倒を見てもらったことが発端です。それから形を変えて市内のすべての学校に配置するという流れになっております。

英語が小学校で教科化されることを聞くと、皆さんは英語の先生が配置されるのか聞いてきますが、英語の先生は配置されません。現在いる先生が英語を勉強して教えることとなっております。かなりハードルが高くなります。そのための準備をしています。授業の質を向上させなければなりません。小学校では各学校によって取り組みは違うのですが、イングリッシュキャンプをやっている学校もあります。それが定着すれば、御殿場市内の授業の質も変わってくるのかなと思います。

これは教育委員の皆様方にしか言っていませんが、将来的に御殿場市にそれなりの教育整備ができてきたら、教育の特区のような中で、英語活動をメインした形を構想しております。御殿場市に来て、御殿場の学校に入ったならば、他市町にない教育が

受けられるのだという意識する親御さんがいれば、よそから見えられた親御さんにしてもわが御殿場市に来るという価値観が変わってくるのかなと思います。個人的には形をつくって研究しております。

少なくとも、幼稚園や小学校の低学年も含めて、御殿場市は低学年から ALT との関わりが持てるという環境整備が出来れば良いのかなと思います。予算がこれから潤ってきましたら、そういう要望もあげたいと個人的には思います。

市長

ありがとうございます。英語って発音というか、耳から入ってくるものがすごく大事だと思います。西中学校の生徒と対話した際に、中学生の時にやっておけば良かったと思うことはありますかと聞かれ、私は英語と答えました。ALT そのものが羨ましいなと思います。私は茨城県の水戸市で生まれ育ったのですが、中学校に入ると英語の授業が始まって、それまで英語に触れることはなく、ABC からやってくれると思ったら大間違いでして、どんどん授業が進んでしまって、何をやっているのかよくわからなくなり、最終的に大学受験の時に苦しみました。

やはり、子ども達がいきなり英語の授業になって不安を覚えたり、なんで皆知っているのに自分は知らないのだと思う環境を作ってはいけません。

予算というのは、当然無駄なことは省くべきですが、お金に替えられないものもあり、御殿場に行けばこういう教育が受けられるとうことは非常に有効だとおもいます。ALT は本来何人必要なのでしょうかな？

教育長

小中で16校なので、16人です。あと7人です。

市長

いきなり16人への増員は難しいかもしれませんが、一人、二人は増やして良いのではないのでしょうか。予算はしっかりと貯めなければいけない事もありますが、使わなければならないことには使わなければいけません。ALT は非常に重要だと思います。続いて、勝又英和委員お願いします。

勝又英和委員

予算に関しては、ALTのお話を市長から聞くことが出来ましたのでとても満足し

ております。一般会計の当初予算を見ますと、教育費として12・64%という高いウェイトを置いて頂いており、大変感謝しております。内容についても、47億円の中でも、施設整備に13億8千万円という数字が出ております。これは全体の中で約30%という非常に大きな数字です。御殿場市の子ども達の教育環境の充実に対して大きな役割を担っているのではないかと思います。

もう一点、図書館についての関係ですが、御殿場市が今後文化都市としての在り方を目指すのであれば、その他の文化的施設の充実を図る必要があります、当然予算の確保が重要ではないかなと思います。御殿場の一面には観光都市としての認識はありますが、私個人としては文化都市としても魅力を感じております。こちらの方に力を入れて頂ければと思います。将来子ども達がUターンしたくなるような都市へと発展して欲しいです。

市長

現在、図書館がかなり手狭になってきている点もあり、私が市長になったばかりの10年前には拡大できるチャンスがあったのですが、うまくいかなかった経緯があります。図書館の構想は、現在場所を選定するところまで来ております。この際に郷土資料館も併せて建築する構想です。是非期待して下さい。子ども達が郷土のことを知ることは非常に重要です。文化都市への計画進んでおります。

佐藤委員お願いいたします。

佐藤朋裕委員

平成31年度の教育予算であります、国も31年度の予算編成にあたり、引き続き歳出改革をするとのいうことで取り組んでいるようです。当市において、市長は予算編成方針として、将来に渡り健全な財政を維持するため財政改革を継続するとおっしゃっております。その中で、教育予算の現状においては次世代を担う子供の健全な育成推進の面から、計画する事業が着々と進んでおります。改めて感謝するところであります。なお一層前向きに進めて頂きたいと思います。

現在、小中学校の校舎改築事業を始め、付随するプールや屋外事業から、ICT機器の導入等についても計画に則り進められていると思います。今年度の第一回総合教育会議では、こどもの安心安全な環境についてという協議事項の中で、市内の小中学校へのエアコンの設置について、市長に協議調整をさせて頂いたところです。御殿場市においては、財政ひっ迫のなかであるが、子どもの命には代えられないため、今後しっかり検証するという回答であったと思います。速やかに平成30年度補正予算案として計上さ

れ、31年度中には設置する予定と先の定例教育委員会でお話があったと思います。前回の総合教育会議では、市長は現時点では回答できないとのことでしたが、改めてお伺いしたいと思います。

また、真の子育て支援日本一を推進する街づくり事業も、限られた予算の中であると思いますが、工夫して実のある事業に展開して頂ければと思います。御殿場市の中でもそれぞれの地域で老若男女が参画し、予算ありきではなくて、地域の人たちが連携協力し、将来を担う子ども達と一緒に、人づくり街づくりの環境を作ることが重要だと思います。以上です。

市長

エアコンについては、教育部の方で調査しており、おそらく10億円程かかってくると思います。国の方が明確に補助金の金額を出しておりますので、当市も手を挙げて、しっかりと対応していきます。心配なのでお金よりもエアコン自体があるのかどうかという点です。低学年から設置していくことになるかもしれません。

真の子育て日本一についてですが、最終的には人間力だと思います。将来的に御殿場市が発展していくために何が必要なのかといえば、人材に外なりません。人材をどうやって教育していくかという点にお金を掛けないなりません。現在の静岡県は人口がとてつもないスピードで減少しており、こじつける訳ではありませんが、教育にお金をかけていなかったことも要因であると思います。医療費の補助等の目に見えるものも大変重要ですが、子ども条例や、いじめ防止基本方針等が一番重要であり、見えづらいところではあるのですが、逆にもっと目に見えるようにしていくことが重要だと思います。

大西委員お願いいたします。

大西孝明委員

よろしくお願いします。ALTについてですが、やはり本物の音、生の音を聞くということは非常に大切だと思います。文化芸術の中で、生の体験ということで、各中学校からの希望者を募り4カ月間ジャズバンドに教授してもらった体験があるということです。ミュージシャンと講師と練習を行い、最終的にホールでコンサートを行うという講座があるそうです。

私自身もそういった体験をしたいと思い、プロのミュージシャンを雇って、実際に

コンサートをやったのですが、大きな違いを感じることができました。プロとアマチュアの違いは体験しなければわかりません。文化芸術関係を進めていくのであれば、中途半端なところではなく、一歩踏み込んで行く必要があると思います。以上です。

市長

ありがとうございます。本物を聴く、体験し体感することは非常に大きな刺激を子ども達に与えられると思います。世間ではプロ野球選手が学校に来るというようなものもあり、非常にいいなと思います。ただこれを行政だけでやるとなると、非常に難しいと思います。色々な協力を得てやっていければいいなと思います。

いずれにしても、観光都市の中には文化都市が根付いていないと、ただ軽いものになってしまうと私は思っております。ありがとうございました。

人間力を高めるための予算づくりを推進していければと思います。御殿場の教育が良いから、自分の子どもを御殿場で育てたいと思わせるような教育体制を作っているための予算編成を実施していきたいです。

(2) 教育における環境整備について

市長

二番目の協議事項としましては、教育における環境整備についてですが、前回の総合教育会議では先生の多忙化解消について、土曜日をどうするべきかという点で勝手にお話しさせていただきました。先生も疲労し、子ども達も授業が多く大変とう環境ではいけないということをお話しさせて頂いたと思います。この環境づくりも非常に重要ですが、もう一つ忘れてはいけないのは、私にとっての「先生」とは師であります。こういうことを忘れてはいけません。私の下の世代から、「先生」を師として仰がなくなってきたのではないかなと思います。どうしてこうなったのかを考えると、情報が世の中に溢れすぎているのも要因かなと思います。ちょっと何かするとすぐに叩かれてしまう環境です。先生が良い状態で子どもに向き合える環境を作らなければならないのではないか、先生の威厳は現在どうなっているのでしょうか。威張れという訳ではなく、師匠としての威厳をどうやって守っていけるのかという点を、私は市長になった時から思っております。

以前、趣味の野球で一緒になった先生と「教壇」について議論になりました。その先生は子ども達と同じ目線やるべきだから、教壇は不要と言っておりました。私はそんな必要はないと思います。そもそも師弟関係であり、子ども達は師としてみる訳ですから、同じ目線にする必要はないと思っております。先生がまわりの目を気にしなければいけない現状は非常におかしいのではないかと思います。周りが全て悪いという訳ではありません、自覚がないという点もあるのかもしれないかもしれません。私は教師ではないので勝手なことを言わせてもらいましたので、教育長からお願いします。

教育長

最近、卒業式で「仰げば尊し」を歌わなくなりました。我が師の恩なんては思っていないというね。例えば、親をけなしたり馬鹿にしたり、そういうことをする人が目の前にいた場合、あまりいい気分にはなりません。そういう発言をする人自身がおかしいのではないかなと思うのではないのでしょうか。これを拡大したときに、自分が教

えを請うた先生の悪口を言う、もちろん合う合わないがあるので不安もあるとは思いますが、それを公の場で言うことを聴く周りの人間からすれば、発言した人間の人間性を疑うということが、基本的な姿勢として昔はあったと思います。今現在は、それがタガが外れてしまっているのではないかと思います。教師は生徒が道を間違えそうになったら権力のような形で行使できます。しかし、権力ではなく権威です。権威とは周りが認めて初めて生まれるものです。権力と権威の違いの中で、そういう姿勢がズレてきたのではないかと思います。ずっと師は師です。いくら師匠を超えようとも、教わった師は師なのです。そういう感覚が違ってきているのかなと思います。

最近の大人たちの世代で、モンスターペアレントと言われる方は多いわけではありません。大きな声をあげる暴論者がほんのわずかにいるだけなのです。けども、その他大勢の正論をいう方たちはおとなしいため、その声が聞こえてこないのです。だから、暴論を言う方の声が大きく、周りの正論をいう方は見て見ぬふりをする、そういう類の話かなと思います。

先生方の威厳を保つという形になった時に、誇りをもって教職を選ぶことが根底になっており、一生懸命に働いている先生方の努力を、一度の暴言で崩されてしまうのが現状なのかなと思います。

先ほどから、人間力のお話がでておりますが、子ども達には真っ当な大人になって欲しいということが教育基本計画に記載されております。真っ当な大人とは、本物の大人です。子ども達にとっては、本物と出会うことは非常に大きなものです。大人の本物の姿を見ることによって子どもは変わってきます。それを重ねない限りは無理です。

ごみを拾うことを一生懸命経験した子どもは、大人になったらごみを捨てることはしなくなります。これは性善説かもしれませんが、そういうことの積み重ねで、こども大人になっても変わっていくのです。そのくらいの長いスパンが必要なものです。よく御殿場の教育はどの程度の費用対効果がありますかと聞かれますが、成人以降の犯罪者のうち、御殿場市内の小中学校を経験した人と、経験しなかった人の割合をだしてくださいといったことがあります。そのくらいのスパンでなければ教育の成果など分かりません。それをリードするのが教師です。そして、教師が頑張れるようにサポートするのが教育委員会だと思っております。

できるのであれば、時代は変わっても「仰げば尊し」のような曲が卒業式に謳われるような、そういう世界があって欲しいなと思います。

市長

ありがとうございます。なかなかお答えづらかったと思います。この会議では教育

長が本音を言ってくれるので本当にうれしいです。「仰げば尊し」といえば、御殿場西高校が必ず卒業式で歌ってくれます。入学時にどんなに荒れていても、卒業式では大きな声で歌ってくれます。まさに師への感謝を伝えています。非常に大事なことだと思います。

大西委員お願いします。

大西委員

私が子どものころは、先生はとても恐ろしいというイメージがありました。メディアが先生を叩く時代であることを踏まえると、今と昔とでは先生自身にも変化があるのかもしれません。以上です。

市長

率直な意見ありがとうございました。佐藤委員お願いします。

佐藤委員

教育における環境整備という議題で、間口が大変広いのですが、学校で教育を受けるのは生徒・児童であり、先生の良い状態が維持できない環境が影響を及ぼすのは子ども達です。教師が教師らしく教壇に立って、誇りをもって授業をすることで必然的に教師の威厳というものを保つことが出来ると思います。

子どもの安心安全の環境づくりと並行して、教師の安心安全の環境づくりを整備することが重要と考えます。教師の多忙化は結果的に子どもを脅かすものとなり得てしまいます。子ども達には本物の大人になって、社会の担い手となるように質の高い教育と魅力ある学校づくりの環境を推し進めることが重要だと思っております。

市長

ありがとうございます。勝又委員お願いします。

勝又英和委員

環境ということで、皆さまのお手元に資料をお配りさせていただきました。これは、

人口の減少についての資料になります。出生率について、一昨年くらいに県が目標値を示しており、かなり高い目標であったと思います。

この資料を用意した意図は、社会教育課で放課後児童教室を実施しており、8校で9教室行っております。子育て支援課の管轄ですが、放課後児童クラブというものがあり、すべての小学校で実施しております、491人が所属しております。そのほかに民間の放課後児童クラブもあることを考えると、かなり多くの児童が所属しているものと思います。

これを出生率や人口減少の面から考えてみますと、親御さんが安心して子育てをできる環境、子ども朝送り出して、安心して働ける環境が非常に大事なのではないかと思います。現在の御殿場市の状況につきまして、私はとても大きな数字だと思っておりますが、より充実した環境整備や周知を実施して欲しいと思います。こういう安心材料を是非これからも作って頂ければと思います。

市長

放課後児童クラブに関しては、御殿場市はかなり誇れる数字だと思います。現実的に足りなくなれば、新しく作ります。必ずやります。

公民館の利用についても考えています。お年寄りと子どもの同一の居場所があってもいいのではないかと考えています。

勝又綾子委員

保護者と先生との信頼関係がもっと深まっていけばいいなと思います。先生方はとても頑張っています。教育の基本は子どもを理解することにあります。教えるべきことをしっかり教えることです。良い教育には、先生と子どもとの間に信頼関係が必要です。子どもからの信頼を勝ち取ってもらえる先生でいて欲しいなと思います。

御殿場市の現在の学校を見ていると、昔荒れた時代を過ごした世代であっても良い保護者となっているのではないかな、子ども達のために頑張れる大人に育っているのではないのかなと思っております。

市長

ありがとうございます。子ども条例において、一番重要なのが市民総がかりで子どもを育てていこうという点です。そうなれば、先生に対する環境が変わるではないかと思います。父親と母親の役割は大きく違って、子どもはお母さんからの影響をすごく受けると思います。お母さんに対する信頼はものすごいと思います。そのお母さん

が、あの先生はダメだ等の言葉が出ないように環境整備をしたいです。先生には自信をもって教育して頂きたいと思います。

芹澤委員お願いします。

芹澤えつ子委員

子育てをされていて、幼稚園から小学校へあがった頃から、学校への送り迎えがなくなり、保護者として学校との関わりが少なくなったと思います。子どもが帰ってきて話す情報だけが頼りになっております。そういう点で不安を感じることはあります。ただ、親として最低限、子どもの前で学校や先生へのネガティブな意見を言わない等のモラルは必要なことだと思います。

真の生きる力をもって社会に送り出すという目的を忘れずに、私自身も子育てをしていきたいなと思いました。

市長

素敵な意見をありがとうございました。やはり保護者と教師の信頼関係がとても重要なのだと思います。しっかりと話ができる環境が作れればと思います。

ということで、ちょっと熱く語らしていただいた点もありましたが、今日の総括として教育長にお話しを伺いたいと思います。

教育長

幼稚園の先生は、保護者の方との面談の場を増やしていることを、園長先生から聞いております。保護者と先生で話ができる場を作っていくことが必要なのかなと思います。

子どもの時代にやらなければならない事の一つ目は、「はい」という返事です。二つ目は挨拶です。三つ目は整頓です。これが躰の3原則です。そういうことを基本にするということで、心の副読本「富士山のように」を作ったのです。かなり丁寧に書きました。

子ども条例行動計画では、一番初めは家庭教育としています。家庭教育が基本なのです。社会総がかりでいくのですが、一番初めは家庭です。人生で一番初めの先生はお母さんです。お母さんへのサポートも重要なかと最近しみじみ思います。

今日はありがとうございました。

5 閉会

教育総務課長

市長、ありがとうございました。教育委員の皆様もありがとうございました。本日皆様方よりいただきましたご意見につきましては、今後の教育委員会の運営に反映させられるように努めてまいりたいと思います。本日の協議としては以上となります。

それでは市長、教育委員の皆様、長時間になるご協議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時43分閉会